

マジョリティであるということへの、自己認識について

文部科学省の2019年度の「学校基本調査」によると、東京都内の大学入学者に占める東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）出身の学生の割合は約7割。近年の経済状況や天災の影響などにより、都内の大学では以前よりも「ローカル化」が進んでいるといわれています。



フォーラムがこの冬に実施した早稲田大学の学生へのヒアリングには東京圏以外の「地方」出身の学生も複数人が参加していました。

大学進学を機に地元を離れたことで「しがらみから自由になれた」「方言で話せる地元の友人には自己開示がしやすく、会話が心地よい」といった話題で盛り上がるなか、

東京圏出身の大学生からは、「（東京圏の）横浜出身である自分が大学ではマジョリティに属すると初めて認識した」といった反響があり、マジョリティの立場であるならば、そのことに自覚的でありたいという多様性への意識が高い世代ならではの繊細な感性を実感する一場面となりました。

＼上京物語 & 地元系小説 10選／

それを読むたび思い出す

三宅香帆(著) 青土社 2022



母親からの小包はなぜこんなにダサイのか

原田ひ香(著) 集英社 2022



島はぼくらと

辻村深月(著) 偕成社 2019



傲慢と善良

辻村深月(著) 朝日新聞出版 2020



県庁おもてなし課

有川浩(著) 角川書店 2011



あのこは貴族

山内マリコ(著) 集英社 2016



食堂かたつむり

小川糸(著) ポプラ社 2008



東京を生きる

雨宮まみ(著) 大和書房 2015



阪急電車

有川浩(著) 幻冬舎 2010



アズミ・ハルコは行方不明

山内マリコ(著) 幻冬舎 2013



大学生のつぶやき（制作協力：早稲田大学「生涯学習論2」受講生）

- ・大学入学に合わせて地方から上京したことで、人間関係のしがらみから逃れることができた。でも、方言で話せないのが東京では自己開示が難しいと感じる。地元の友人と夜通しおしゃべりするのが楽しい。
- ・就活で会社説明会に参加したとき、男性社員だけで来ている会社には、産休や育休の制度があったとしても「本当に大丈夫かな」と心配になる。

普段の生活で、性的な嫌がらせや差別を経験したり見たりするか

女子大学生×ジェンダー調査報告書2020（ガールスカウト日本連盟,2020）によると、何らかの性差別や性的嫌がらせを経験している女性の割合は、高校生と大学生を比較して大きな違いがあります。



大学生はどうして性的な被害を認知しやすいのでしょうか。

- ・行動範囲が広がり、社会に潜むジェンダーの課題に触れる機会が多いから・・・？
- ・ジェンダーについて学ぶ機会があり被害を認識できるようになるから・・・？

若い世代がジェンダーについて学び、多様性への理解が普及しつつある昨今ですが、社会全体が変わっていく速度が追い付いていないという現実があります。

大学生の今、読みたいジェンダーの本10選

フェミニズムってなんですか？

清水 晶子(著) 文藝春秋 2022



僕の狂ったフェミ彼女

ミン・ジヒョン(著)、加藤慧(訳) イースト・プレス 2022



アイドルについて葛藤しながら考えてみた ジェンダー／パーソナリティ／〈推し〉

香月孝史・上岡磨奈・中村香住(編著)、筒井晴香ほか(著) 青弓土社 2022



あいつゲイだって アウティング はなぜ問題なのか？

松岡宗嗣(著) 柏書房 2021



「テレビは見ない」というけれど エンタメコンテンツをフェミニズム・ジェンダーから読む

青弓社編集部(編著)、西森路代(著) 青弓社 2021



女と男じゃなくて私とあなたで話そう

岩井美代子・ふじわらかずえ(著) ワニブックス 2020



ジェンダーで見るヒットドラマ 韓国、アメリカ、欧州、日本

治部れんげ(著) 光文社 2021



少女だった私に起きた、電車のなかでのすべてについて

佐々木くみ、エマニュエル・アルノー(著) イースト・プレス 2019



ジェンダーについて大学生が真剣に 考えてみた

一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同(著)、佐藤文香(監修) 明石書店 2018



<女子力>革命

萱野稔人(著) 東京書籍 2018



大学生のつぶやき（制作協力：早稲田大学「生涯学習論2」受講生）

- ・私の周りにはジェンダーについて学んだことのある学生が多く、皆気をつけているという印象がある。
- ・気軽に恋バナをふってくる人がまわりにいるが、必ずしも皆が恋愛するわけではないし、異性愛者だけではないのに配慮がないなど残念な気持ちになる。